

令和6年度 年間学習指導計画案

科目	地理探究	単位数	3単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース（文系）
使用教科書	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）		副教材等	2024 新地理要点ノート（啓隆社）	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	地理探究の目標について、学習指導要領では次のように規定しています。 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
世界の諸事象の規則性や傾向性などを系統的に、世界の諸地域の構造や変容などを地誌的に考察した上で、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする学習過程を前提に、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、地域的特色や課題などを理解している。	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、地理的な課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて構想できる力を身に付けている。	日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることから、グローバル化が進み、国際理解の必要性が増している現代における重要な資質・能力を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準, 評価方法

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	1節 地形 1 地形の成因と地球表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と海岸にみられる小地形 4 そのほかの特徴的な小地形	地球表面の、地球規模の大地形や、河川が形成した小地形などのさまざまな地形について、それぞれの地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかを理解する。	○			地形に関する知識と世界の地形分布の特徴、地形図の等高線や地図記号を判読し、地形や土地利用を捉えることができる。	
				○		地形をプレートテクトニクスと関連づけ、地形と比較して考察できる。	
					○	地図の読み取りや作業に意欲的に取り組み地形と生活の関連を捉えようとしている。	
5	2節 気候 1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象	気温や降水量、風などの気候要素の地域による違いについて要因を考察し、人々の生活にどのように影響しているかを理解する。	○			大気の大循環と海洋、各気候の特徴を理解し、資料から各気候と植生の関連、人々の生活を読み取り、整理できる。	授業態度 ワークシート 課題 定期考査
				○		気候と人間生活との関連を資料から考察し、各気候による景観の違いを捉え生活への影響を考察できる。	
					○	資料の判読から世界各地の気候や生活文化を意欲的に探究し、気候資料の作成に意欲的に取り組んでいる。	
6	3節 日本の自然環境 1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災・減災の取り組み 4節 地球環境問題 1 地球環境問題とは 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取り組み	日本の自然環境の特徴があり、その特徴と自然災害の関係を理解する。 地球上のさまざまな環境問題を理解し、その解決と持続可能な社会の創出のために、どのような考え方やどのような取り組みを行うべきかを考える。	○			日本列島の地形や気候など多様な自然環境の特徴と自然災害との関係について理解する。	
				○		自然災害と各地形の関係について、多面的・多角的に考察し、表現できる。	
					○	日本の自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
7	1節 農林水産業 1 農業の発達と分布 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 日本の農業の現状と課題 5 世界と日本の林業 6 世界と日本の水産業	農林水産業が、自然条件や社会条件により分布や発達にどのような傾向や規則性があるかを理解する。	○			農林水産業の空間的な規則性、傾向性や、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みについて理解する。	授業態度 ワークシート 課題 定期考査
				○		場所の特徴や結びつきから主題を設定し、それらの空間的な規則性、傾向性や地球的課題の要因や動向を多面的・多角的に考察し表現している。	
					○	農林水産業について、よりよい社会の実現を視野に関連する課題を主体的に追究しようとしている。	

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8 ・ 9	2節 食料問題 1 世界の食料問題 2 日本の食料問題	食料の分配と、世界全体での偏りや飽食や飢餓について、地域を理解しその原因について理解する。	○			食料の分配の世界的な偏り、飽食や飢餓のある地域と原因について理解する。	
				○		食料の分配の世界的な偏りや、飽食や飢餓がみられる地域とその原因について、多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	食料問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
10	3節 エネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用	世界のエネルギー・鉱産資源の分布に大きな偏りがあることを理解する。 エネルギー・鉱産資源が、どのようにして生活や産業に利用されているか、また、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかを理解する。	○			エネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、資源の生活や産業との関連、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて理解する。	
				○		エネルギー・鉱産資源の生産や消費の不均衡をなくすために行われていることを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	エネルギー・鉱産資源について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
11	4節 資源・エネルギー問題 1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題	これまでの資源・エネルギー問題は、限りある資源をどのように利用するかという考え方であった。今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要なのだろうか。	○			今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためにどのような考え方が必要かについて理解する。	授業態度 ワークシート 課題 定期考査
				○		持続可能な社会の実現のため、どのような考え方が必要かを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	資源・エネルギー問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
12	5節 工業 1 工業の発達と種類 2 工業の立地 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 工業の知識産業化とスタートアップ企業 6 日本の工業	工業の生活や産業の発展との関係と。世界工業がどのように発展し、現在はどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているのかを理解する。	○			工業はどのように発展し、現在はどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて理解する。	
				○		現在、どのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	工業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
1	6節 第3次産業 1 経済発展と第3次産業 2 商業の現状と変化 3 商業以外のさまざまな第3次産業第	経済が発展と、物やサービスへの需要の関係と、第3次産業の現状について理解する。	○			経済が発展し、物やサービスへの需要が高まり、主力の産業となった第3次産業の現状について理解する。	
				○		主力産業となった第3次産業の現状について、多面的・多角的に考察し表現している。	
					○	第3次産業について、よりよい社会の実現のための課題を主体的に追究している。	
2	1節 交通・通信 1 世界を結ぶ交通 2 日本の交通の特徴 3 情報通信の発達	交通と通信の発達の社会や経済への影響と、発達の傾向や地域性、地域間格差について理解する。	○			交通網や通信網の発達には、どのような傾向や地域性、地域間格差が現れているかを理解する。	授業態度 ワークシート 課題 定期考査
				○		交通網や通信網の発達には、なぜ傾向や地域性、地域間格差が現れているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	交通・通信について、よりよい社会の実現を視野に、関連する課題を主体的に追究しようとしている。	
3	2節 観光 1 余暇の拡大と観光産業 2 日本の観光とその変化	観光の特徴や利点、現状と今後の課題について理解する。	○			訪日外国人数を増やして観光産業などを盛んにしようとする取り組みや、観光の特徴や利点、課題について理解する。	
				○		観光産業を活性化させる取り組みや、観光の特徴や利点、課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	